

POSCO・新日鉄プレゼンツ

日韓伝統音楽交流 「共に響く、明日への調べ」

新日鉄と韓国・POSCOは戦略的提携契約を締結し、さまざまな分野で提携施策を進めているが、文化面でも日韓の交流を通じて相互の芸術についての理解を深め、共感の輪を広げていきたいと願い、2008年より文化交流を深化させている。今号では、11月11日、東京・千代田区の紀尾井ホールで開催された日韓伝統音楽交流「共に響く、明日への調べ」の様相を紹介する。



カヤグム ホアン・ピョンギ
伽倻琴を演奏する黄秉冀氏



韓国民謡「セタリョン」を唄うパンソリの安淑善氏と室内楽団・タスルム



箏曲「稚児桜」を演奏する藤井昭子氏(右)と滝澤郁子氏

一歩一歩積み上げてきた 音楽メセナ

両社は、昨年4月9日に紀尾井ホールで「ビューティフル・フレンズ・コンサート」を開催して以来、日本と韓国で交互に公演を行っている。第4回目となった今回の公演は、今年6月26～27日に韓国・国立国楽院で開催した「美しい未来へ」に続く日韓伝統音楽交流。今回は、日本の皆様に韓国の伝統音楽への理解を深めていただく目的で、第一線で活躍する演奏家を招

いた公演を企画した。

公演は色鮮やかなチマ・チョゴリをまとった韓国伝統音楽室内楽団・タスルムによる宮廷音楽『新壽齋天』で幕を開けた。今回の公演で特に注目されたのが、伽倻琴演奏家として韓国・国立国楽管弦楽団芸術監督の黄秉冀氏と、ユネスコ無形遺産に選定されている伝統芸能パンソリ名唱の安淑善氏。黄秉冀氏は伽倻琴の調べでホールをしばし韓国の「風流」の世界に誘い、安淑善氏はパンソリの名曲を深い情感で語り、歌いあげた。日本からは国内外で活躍する地歌箏曲の藤井昭子氏

と滝澤郁子氏が登場し、伽倻琴と形は似ていても音色の異なる日本の箏の調べで、日韓交流を意義深いものとした。

また、神童と言われる小学生の宋素喜さんの伸びやかな歌声、奚琴での『翼をください』など、伝統音楽から現代楽曲に至るまで、さまざまな“明日への調べ”が奏でられた。

公演終了後、臨席したPOSCOと新日鉄の幹部は交歓を深め、今後とも音楽メセナ活動による文化交流で日韓両国の社会貢献に努めていくことを誓った。



『翼をください』を奚琴で演奏するコッピョル氏



両社幹部と演奏者